

技術協力プロジェクト/開発課題別の標準的指標例及び代表的教訓レファレンスについて（ガイドライン）

I. 本レファレンスの目的

JICAが実施する技術協力プロジェクトの案件形成、事前評価段階において、協力の効果を「客観的」かつ「定量的」に分かりやすく示すための参考となるよう、解決すべき開発課題や問題タイプに応じた標準的な指標例をレファレンスとして整理した。さらに、過去の類似案件における成功/失敗例などの教訓をプロジェクト計画に反映することが可能となるよう、代表的な教訓を整理しこれらを通じた技術協力プロジェクトの質の改善・向上を目指している。

2. 本レファレンスの構成と概要

本レファレンスは、開発課題体系図（※）¹に基づいて指標と教訓の分類整理を行ったものであり、開発課題に紐づかせる方法で設定した。これにより、それぞれの個別プロジェクトが、どの開発課題や問題タイプに対応するものなのかを意識できるようにした。本レファレンスは、関係課題部からも技術的なコメントを得て作成したものであり、特に案件形成、事前評価段階における指標設定や類似案件の教訓参照時の実務的レファレンスとして活用されることが期待される。

（1） 開発課題体系図（課題別指針）に基づく整理

課題別指針が示す開発課題体系図に基づいて、開発課題タイプ別に、プログラム・レベル（中間目標）、プロジェクト・レベル（中間サブ目標）の標準的な指標例を提示し、「明確な課題の設定」の習慣付けが可能となるよう意図した。また、指標例に加えて、上位目標・

¹ ※途上国における開発課題の構成を横断的に俯瞰して全体像を把握するために、各開発課題を「開発戦略目標」＞「中間目標」＞「中間サブ目標」にブレークダウンし「目的—手段」の関係をツリー形式で整理したもの

プロジェクト目標の「モデル記載案」を提示し、同記載案を通じ、開発効果の発現に向けた「ロジックモデル」の把握が可能となるよう意図した。

(2) 標準案件モデル

今回整理した「標準案件モデル」（以下、「モデル」とする）とは、中間目標、中間サブ目標を参照しつつ分析した結果得られた「技術協力プロジェクトのパターン（例）」のことである。上位目標、プロジェクト目標の「モデル記載案」を提示し、課題解決に向けた個別プロジェクトのアウトプット＜アウトカム＜インパクトの連鎖のロジック・モデルの把握が可能となるよう意図してある²。

(3) 標準指標例

協力の効果を「客観的」かつ「定量的」に分かりやすく示すために、解決すべき開発課題タイプに応じた標準的な指標例を整理したものである。「中間サブ目標」レベル（プロジェクト目標レベルに相当）の指標の設定に当たっては、過去案件で実際に設定された指標を収集・分析した上で、他ドナーや国内行政機関等で使用されている指標等を参照しつつ、より適切な指標を整備した。また、「中間目標」レベル（プログラム目標レベルに相当）の指標については、課題別指針の「基本チェック項目」に掲載されているマクロ指標を参考に設定した。

(4) 代表的教訓

案件形成段階及び実施中のマネジメントにおいて、活用・反映が重要と思われる代表的な教訓とリスクを抽出（一部加工）の上、提示し、膨大な教訓事例情報へのアクセス時間の短縮を目指したものである。教訓例は、課題別指針、各種プロジェクト研究報告書、終了時評価、事後評価、プロジェクト評価報告書等を参照・分析し、抽出した。

(5) レファレンスプロジェクト

² なお、あくまでこれまでのプロジェクト実績に基づきモデルを類型整理したものであり、今後新たな協力アプローチが開発されれば標準案件モデルも追加していくことが必要である。

標準案件モデルごとに、具体的なプロジェクトのイメージと参照すべき好事例をレファレンスプロジェクトとして提示した。

(6) その他

科学技術協力型技術協力（SATREPS）並びに開発計画型技術協力プロジェクトについては、標準的な技術協力プロジェクトのログフレーム設定とは一部異なる取扱いが必要なことから分析対象外とした。

3. 使用方法と留意点

(1) 使用方法の手順は以下の通り。

- ①「開発課題体系図」に基づく「明確な課題の設定」と協力プログラムにおける位置付けを確認
- ②個別プロジェクトの上位目標・プロジェクト目標と客観的かつ測定可能な指標の設定
- ③代表的な教訓を参照・活用の検討
- ④事業目標例でプロジェクトのイメージをつかみつつ、レファレンスプロジェクトで類似案件の事例を参照

(2) 留意点

1) 「基本」指標と「補助」指標

指標例に付された「基本」とは、案件の特性によらず一般的に必要性が認識されるもので、かつ、データ収集が可能と思われるものを選定している。一方、案件の特性、コンポーネントにより必要となることが想定されるものや、必要性はあるがデータ収集の困難性が高いものについては「補助」とした。各案件における指標設定に当たっては、該当するすべての基本指標を設定する必要はなく、案件の特性に応じ取捨選択し、必要に応じ補助指標の活用も行う、また指標例以外に適切な指標があれば適宜追加する、等の運用、応用を行うこ

とが望ましい。

2) レファレンスとしての位置づけ

今般作成したレファレンスは、技術協力プロジェクトの指標検討や類似案件の教訓参照の一助とすべく整理と例示を行なったものであり、効果の実現に至るための分析枠組みや手法を示したものでは無いことには十分留意のうえご活用頂きたい。案件の計画検討にあたっては、本レファレンスに記載された指標を機械的に使用するのではなく、個々の対象国の現状や開発課題に関する分析を踏まえた上位目標、プロジェクト目標の設定を前提とし、目標に合致した適切な指標を、個別具体的な状況に応じて的確に設定して頂きたい。

なお、本レファレンスを活用される関係各位からのご助言を頂きながら、レファレンスのアップグレードや対象分野/セクターの拡大など、更なる整備を進めていく予定であり、順次、対象分野/セクターの選定を行っていきたいので、今後整備されることを希望する分野/セクターがあれば、希望表明をして頂きたい。

以 上